石教研特支部肢体部門レポート【作成例】

個々の障がいの状態に応じた指導の工夫

〜総合的な学習の時間（修学旅行）の実践から〜

学校名　学校名　学級名

レポート作成者　名前

１ 抽出児童・生徒について

|  |  |
| --- | --- |
| 学年・性別 | 中学３年　男子 |
| 起因疾患名 | 脳性麻痺による両上肢機能の著しい障害脳性麻痺による両下肢機能の全廃体幹機能障害 |
| 重複障がい | 知的　自閉症/情緒　病弱　弱視　難聴　言語　なし　該当するものに丸 |
| 障害の状況 | ①日常的な身体の動き　・全介助（移動、食事、排泄など）・首から上と手首より先は意図的に動かせる②学習面での様子　・交流学級で学習　・学習内容によっては特別支援学級で取り組む　・体調が悪い時はベッドで横になる③認知面　・見通しを持って活動することが苦手　・自分で判断することが苦手　・好きなことについては記憶力が高い　 |
| 特記事項 | ・口でタッチペンをくわえてタブレットを操作する |
| 支援目標 | ①長期　・人生の自己決定、介助依頼、考えを発信する力②短期　・学校生活の自己決定、介助依頼、状況を把握する力 |
| ねらい | ①教科学習におけるねらい（目標）　・手術後の体にあった学習方法を見つける　・自分でできることを増やし達成感を感じる②自立活動におけるねらい（目標）　・介助依頼ができる　・自分の考えを相手に伝えることができる |

２ この状態に応じた指導、支援の手立ての工夫

|  |
| --- |
| ①環境設定の工夫　・自己決定できる雰囲気づくり（大人ができない理由を探さず生徒を応援する）　・周囲の生徒と同じようにできる準備（飛行機、バス、ホテルなど）　・安心して活動できる準備（保護者同行、保護者夜間対応など）・本人と教員だけで班を作る |
| ②教材教具の工夫　・タブレットを使用（記録はノートに代筆）　・答えを教えるのではなく、課題に気づけるように会話をする |

↑必要に応じて写真を貼り付けてください

３実践報告

①この授業で育成したい力（研究主題に関わって）

|  |
| --- |
| 【研修主題】自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現する子どもの育成〜キャリア発達を促す指導・支援の充実〜 |
| 人間関係形成能力・社会形成能力 | 自己理解・自己管理能力 | 課題対応能力 | キャリアプランニング能力 |

↑この授業で育成したい力に丸

②指導案

|  |  |
| --- | --- |
| 題材名 | 自主研修のコース決定 |
| 日時 | 令和　年　月　日（　　） |
| 場所 | 　 　　学級 |
| 担当 | 担当者名 |
| 指導目標 | 地図上に研修候補地の印をつけ、効率の良いコースを決定する |
| 時程 | 学習項目 | 学習内容 | 指導上の留意点 | 教材・教具 |
| 10:3510:4010:41 | ・準備・あいさつ・課題 | 【介助依頼】使いたいものを相手に伝え準備してもらう【あいさつ】開始のあいさつをする【課題の把握】自主研修のコースを決めることを把握【学習の開始】①タブレットで場所調べ②教員に場所を伝える③教員が紙の地図に印をつける④①〜③を繰り返す⑤出揃った研修候補地の地図を見て遠い研修地の印を消す⑥回やすい順番を決める | ・介助依頼を受けてから準備をする・ノートに代筆して提示する・タブレットを使用・生徒から発信があるまで待つ・生徒のアイデアを否定しない（できない理由を言わず、どうすればできるかを一緒に考える） | ・ノート・筆記用具・タブレット・タブレットスタンド・ノートスタンド・タッチペン |

↑必要に応じて写真を貼り付けてください

|  |
| --- |
| 今後に向けた成果と課題（研修主題と関連させて）・生徒１人の単独班にすることで、生徒本人が自分で決定できた。どうすればできるのか、どうしてできないのかを考えることで自己理解力が高まった。時間管理や持ち物のチェックを本人にしてもらったことで自己管理する力も高まった。本人に自信がついた。・どうすればできるかを考えれば意外にできることが多い。できない理由を探してしまう私自身の固定概念の影響が大きかったと反省した。・他の生徒よりも費用が多くかかる。 |

**★赤い字の部分を参考にし各自で入力してください。**

**★丸で囲む部分があります。**

**★写真は必要に応じて貼り付けてください。**